を対象としたクラスも設けられ、ネイティブ・スピーカーによるハイレベルな授業も行われています。

さらに高校からはEEC（Extended English Class）という選抜制のクラスが設けられ、ネイティブ・スピーカーが組み立てたプログラムによって留学と同様の授業が行われており、その内容はTOEIC900点レベルの生徒でも実力を伸ばせる、海外留学にも対応できるクラスだといいます。

TOEIC Bridge・TOEICテストを活用し、英語学習の動機付けを図る

もう一つの新しい試みは、TOEIC Bridge、TOEICテストの導入です。茗溪学園では2003年1月に中学の海外生を対象に実験的にTOEIC Bridgeの受験を実施しました。その結果、中学3年ぐらいが受験するにはTOEIC Bridgeなら難しすぎず簡単すぎず適当だという感触を得たそうです。

そこで、2004年1月には、中学海外生、中学3年、高校1、2年の全員（706名）が受験。今後は毎年実施することで、中学3年から高校2年までの3年間の進捗度を測っていくという計画が立てられています。一方160点以上のスコアの生徒は学校が費用を負担し、3月にTOEICも受験するという制度を取り入れています。2004年は102名が160点以上をマークし、3月には98名がTOEICを受験、全体の平均スコアが669点と非常に高い結果を残しました。

現在、TOEIC Bridge、TOEICの結果は成績には反映されてはいませんが、TOEIC BridgeはEECの選抜テスト一次試験として活用されています。選抜テストの基準はTOEIC Bridgeスコア140点以上で、そのほかにエッセイやインタビューを経て合格となります。ちなみに高1、高2のEECクラスのTOEIC Bridge平均スコアは172.8点です。

このようにTOEIC Bridge、TOEICを導入するようになった経緯について松崎先生は次のように語ってくれました。

「TOEIC Bridge、TOEICの導入の理由には生徒の動機付けという点が挙げられます。例えば、EEC選抜では基準点を明らかにすることで、生徒も目標を立てて意欲的に学習することができ、また、TOEIC Bridgeで160点を取ればTOEICを受けられるということも、生徒達の動機付けになっています。また、TOEIC Bridge、TOEICでは学年の枠を取り払い、さらに社会人とも同じスケールで勝負できるという利点もあります。新入社員の平均スコアなどを知らせることで、自分の英語力を比較したり、試したりすることができ、より上を目指そうという意欲を促すことができるのです」

さらに、大学受験や社会に出てからのことを考慮してもTOEIC Bridge、TOEICを受験することは有効だと言います。

「センター試験でもリスニングが導入されるので、生徒の間でもリスニングについての関心が高まっています。実際、大学、企業でもTOEICの認知度が高くなり、受験の必要性が高まっています。中1で入ってくる生徒達は早ければ約10年後には社会に出て行きます。それを見越して将来役に立つ英語教育を行っていきたいと考えています」

また、生徒にとっての利点同様、教員側が生徒の能力を把握したり、カリキュラムを考えたりする上でも、活用への期待が膨らみます。

「TOEIC Bridgeでは、スコア評価により細かく生徒の実力を把握でき、3年間通して受験することで実力の伸びを見ながら学習を進めることができます。また、リスニング、リーディング、サブ・スコアなどによって様々な分析が可能となります。例えば今年中学では、リスニング力強化のため、全員にCDのリスニング教材を渡し、家で何回も聞いてもらい、毎週月曜日にテストを行っています。その成果もスコアに表れてくると思いますので、指導方法を工夫する上でも活用できます。また、今後受験を重ねデータを蓄積し、各大学に入学した生徒ごと、またセンター試験の点数別にTOEIC Bridge、TOEIC平均スコアを示すことで目標を明確にし、受験と結びつけた動機付けを行うこともできると思います」

このように6年間の充実した教育を受けて個性や能力を伸ばしていく生徒達にどのような思いを持って英語を教えているのでしょうか。松崎先生は次のように語ります。

「私自身バックパッカーで20数カ国を旅行していますが、英語が使えて一番良かったのは、自分とは全く違った環境で育った人達とコミュニケーションが取れるということ。その中で新しい考えや、思いもつかなかった価値観を得ることができます。自分の視野、世界、人生の幅を広げるものとして英語を活かしていって欲しいですね。」

田代　淳一
たしろ　じゅんいち
茗溪学園中学校高等学校　教務部長

化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩んでいく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。

よろしくお願いします。

茗溪学園中学校高等学校
〒305-8502　茨城県つくば市稲荷前1-1
TEL. 029(851)6611（代）FAX. 029(851)5455
www.meikei.ac.jp

編集長から一言

茗溪学園の英語教育の具体的な紹介です。

中学1年から高校2年までの英語指導での学年ごとの具体的活動・カリキュラムが示されています。また、TOEICなどの試験を採用し、生徒一人ひとりの英語力を評価して、その結果を英語学習の「動機付け」に積極的に活用している様子もわかります。

茗溪学園の英語教育の特徴は、コミュニケーション・ツールとしての「英語力」と、このコラムで紹介してきた「自分の考えをまとめる力、コミュニケーション能力」などのスタディ・スキルを一体化して、中高一貫のメリットを生かして総合的・段階的にトレーニングしていることです。